

2025 年度 鋼構造塑性設計小委員会 第 1 回 議事録

日 時：2025 年 4 月 29 日（日）14:00～20:15

場 所：建築会館 304 号室（ハイブリッド方式）

出席者：（網かけは欠席，下線はオンライン）

佐藤篤司（主査），五十嵐規矩夫，石原清孝，井戸田秀樹，岡崎太一郎，金尾伊織，
聲高裕治，平井慶一，向出静司，山西央朗，中野達也（記録）

資 料：

No.01_00	議事次第（佐藤）
No.01_01	2024 年度第 4 回議事要録案（中野）
No.01_02	運営委員会査読意見への回答案
No.01_03	第 4 版「改定の序」について

議題

1. 前回議事録確認（資料 No.01_01）
 - ・ 前回議事録（案）を確認し，承認された。
2. 鋼構造運営委員会
 - ・ 2025 年 3 月 17 日に開催された運営委員会の報告があった。
3. 鋼構造塑性指針第 4 版 査読意見対応について（資料 No.01_02）
 - ・ 運営委員会査読意見への回答案を章ごとに確認した。

指針全体に関わる内容

- ・ 曲げモーメント M_y の記号は，降伏モーメントと y 軸回りのモーメントを区別する必要があるため，前者を M_y ，後者を M_Y とする。これにあわせて x 軸回りのモーメントは M_X とするが， I_y や i_y の添字は y と Y を区別する必要がないため小文字のままとする。また，これらは記号の添字のルールなので，図中の軸を表す X と Y は， x と y のままとする。
- ・ 発行月は，月刊誌である論文には記載するが，不定期刊行の書籍には記載しない。【事務局にも確認】
- ・ 文章中での文献の引用に「著者名」と「文献番号」の 2 種類があるが，各章で統一されていればよい。
- ・ 「図・表」は番号・記号の前に，「式・点」は番号・記号の後ろに記載する。
- ・ 用語の統一
 - ✓ σ_y は降伏応力度， F_y は材料の降伏強さ， F_u は材料の引張強さ
 - ✓ 塑性変形性能 → 塑性変形能力（ただし， R について記述する場合は塑性変形倍率）
 - ✓ 制限値 → 規定値，制限 → 規定
 - ✓ 横補剛区間長さ → 横座屈補剛間長さ
 - ✓ 降伏点 → 降伏応力度
 - ✓ プロット → マーカー
 - ✓ ひずみ，ひずみ度，歪度 → 歪

- ✓ 中立軸 → 塑性中立軸
- ✓ ともなう → 伴う
- ✓ じん性, 靱性 → 靱性
- ✓ 釣り合い, 釣合 → 釣合い
- ✓ 釣合条件式 → 釣合式
- ✓ えられる → 得られる
- ✓ 鋼梁, 鉄骨梁 → 鋼梁 (鋼柱とも整合)

改定の序

- ・ 7行目: エネルギー釣合い → エネルギーの釣合い
- ・ 第3段落目の冒頭2文の LSD 指針に関連する記述は, マイナスの印象を与える内容のため削除する.
- ・ ブレースに関する記述は, 座屈するブレースの内容を拡充した旨を追記した上で, 当該段落の最後に移動する.
- ・ 最終段落の LSD 指針に関連する記述は, LSD 指針で記述すべき内容なので削除する.

第5版改定での検討事項

- ・ 有孔梁の耐力 (鋼構造に関連する規準・指針類に記載が無いため)
- ・ 2章の図 C2.4.3 が過完全崩壊機構になっていることと, その説明.
- ・ 10章の例題1に記載されている(C10.3.34)~(C10.3.36)式は, ここより前の(C10.3.15)~(C10.3.29)式の付近に記載することを検討.

改定スケジュール

- ・ 構造本委員会査読の開始が1カ月ほど遅れるため, 今後のスケジュールを1カ月遅らせることとした.

2025年5月23日(金)	運営委員会査読意見への回答案の Excel ファイルと それを反映した修正原稿の Word ファイル&PDF ファイルの作成	
2025年5月30日(金)	運営委員会査読の担当者に上記を送付	
2025年6月30日(月)	再査読期間	
7月中旬まで	再査読対応と構造本委員会査読用原稿の取りまとめ	
2025年7月下旬	構造本委員会・査読, 査読対応	(6ヶ月)
2026年1月	最終原稿集約, 脱稿・印刷開始	(6ヶ月)
2026年7月	刊行・講習会 (溶接 GB の講習会とずらす)	

4. 今後の予定

- ・ 2025年度第2回

日 時	未定
内 容	本委員会査読意見への回答案の審議

以上